

# インフルエンザニュース

東京都立衛生研究所

平成12年インフルエンザ標語

「インフルエンザ。かかる前に予防。こじらす前に治療。」

定点医療機関当たりのインフルエンザ患者数は3月下旬には2.02でしたが先週に入って0.71まで減少し、インフルエンザもいよいよ終息を迎えたようです。

今シーズンのインフルエンザニュースの発行は、今回で終了させていただきます。そこで今回のニュースには、

1. これまでに報告されたインフルエンザ様疾患患者発生状況
2. 東京都公立学校の学級閉鎖状況

(東京都教育庁「公立学校のインフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況」等報告による)

3. 定点当たり患者発生数の推移(東京都・全国 第10週～第13週)
4. 今シーズンのインフルエンザ流行規模とウイルスの検出状況
5. 年齢別インフルエンザ検出状況(東京都感染症発生動向調査定点医療機関送付検体による)
6. 今シーズンのインフルエンザ流行株と抗体保有状況(平成12流行予測事業)

について掲載し、今シーズンのインフルエンザ流行状況や検出ウイルス等についてまとめました。

## 1. インフルエンザ様疾患患者発生状況

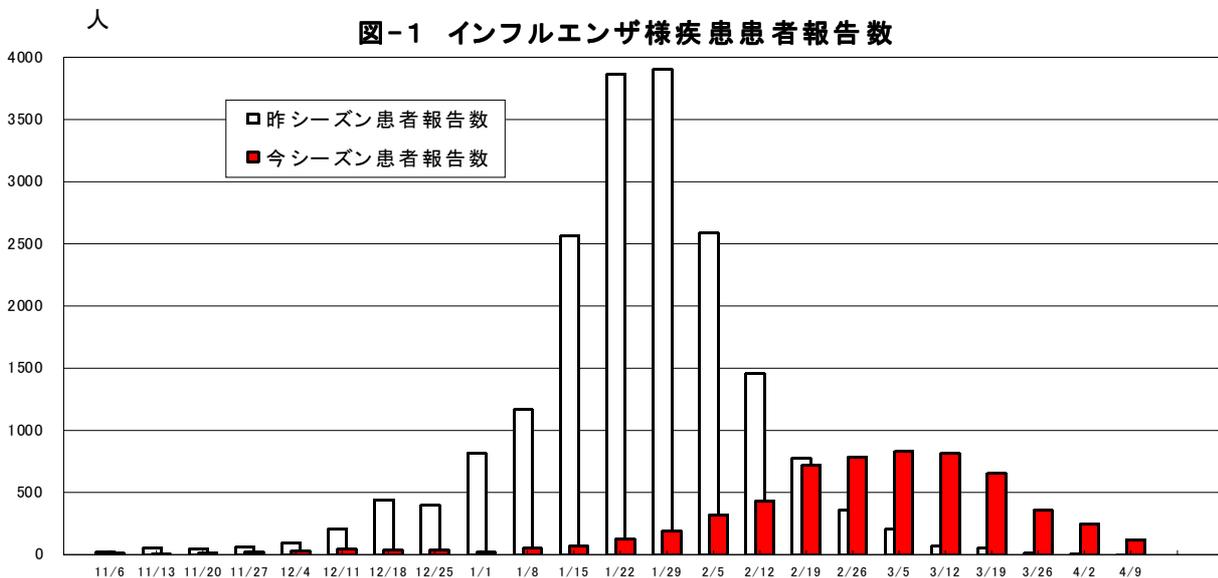


表-1 インフルエンザ様疾患患者報告数比較(今シーズンと昨シーズン)

	1月迄計	2月				2月計	3月				3月計	4月		4月計
		1週	2週	3週	4週		1週	2週	3週	4週		1週	2週	
今シーズン	677	320	434	720	789	2,263	831	820	655	359	2,665	246	126	372
昨シーズン	13,649	2,592	1,457	775	361	5,185	204	70	51	14	339	9	3	12

## 2. 東京都公立学校の学級閉鎖状況

2000年10月12日から2001年4月11日までに教育庁に届けられた東京都公立学校の学級閉鎖状況を掲載しました。

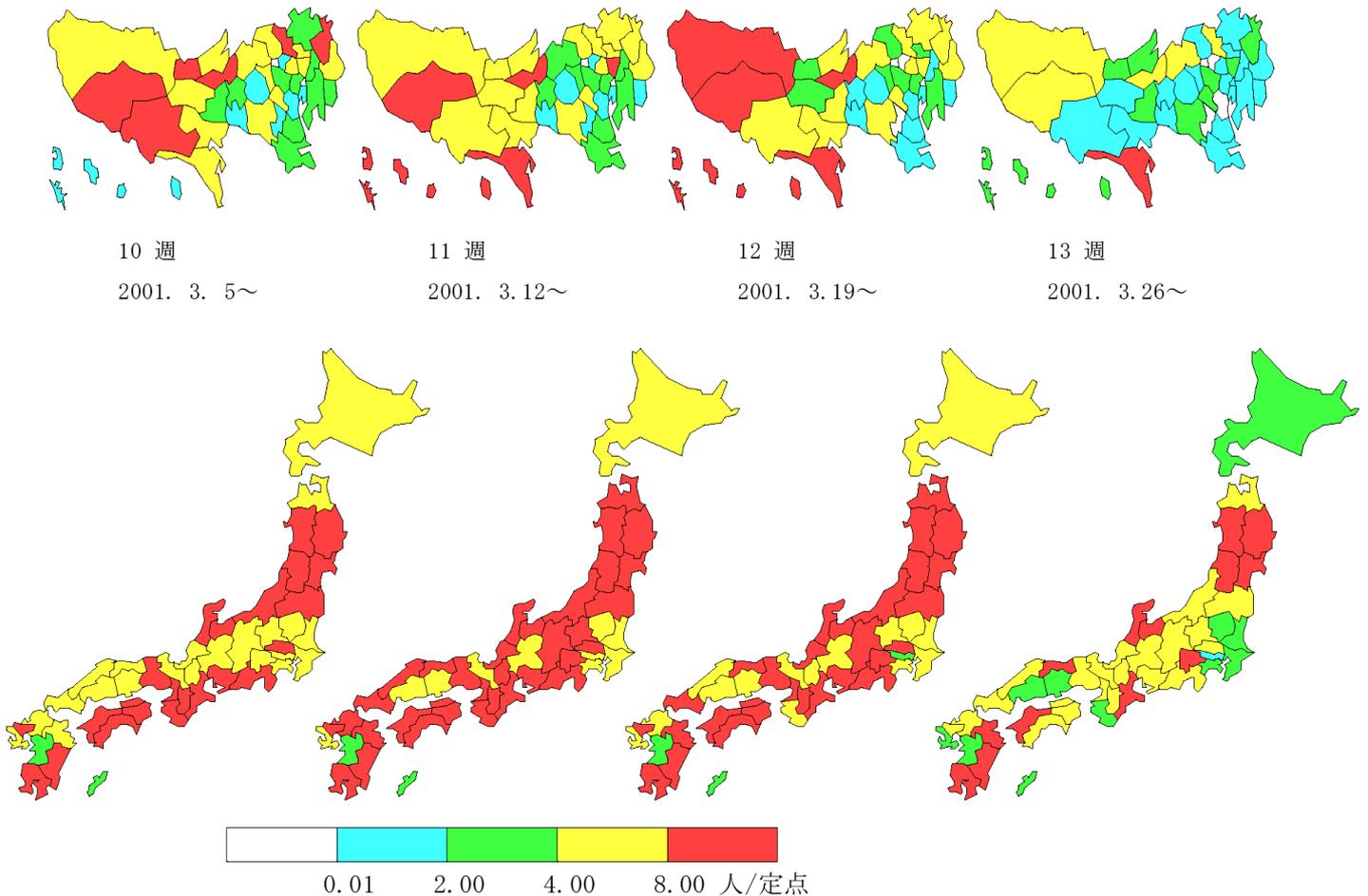
表-1 公立学校のインフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況

学校種別	幼稚園		小学校		中学校		その他		欠席者 数合計	患者数 合計
	園数	組数	学校数	学級数	学校数	学級数	学校数	学級数		
2000年10月計	0	0	1	2	0	0	0	0	26	35
2000年11月計	1	1	2	2	0	0	0	0	24	55
2000年12月計	1	1	2	3	1	1	0	0	52	104
2001年1月計	1	1	12	14	1	1	0	0	153	329
2001年2月計	1	1	83	103	23	38	2	10	1,285	2,678
2001年3月計	2	2	75	139	5	29	1	3	1,453	3,174
2001年4月11日	0	0	1	1	0	0	0	0	9	13
累計	6	6	176	264	30	70	3	13	3,002	6,386

(注) 学校種別のその他には、高等学校と盲ろう養護学校を含み、組・学級数は延べ数です。  
(平成13年4月11日現在 教育庁報告)

厚生労働省結核感染症課によると、全国のインフルエンザ様疾患患者報告数における学校欠席者数は、平成12年10月29日から平成13年3月31日までの累計で62,513人で、昨年同期の260,011人(H11. 11. 7~H12. 2. 24)に比べ4分の1程度となっています。

## 3. 定点当たり患者発生数の推移(東京都・全国) 第10週から13週まで



#### 4. 今シーズンのインフルエンザ流行規模と検出ウイルス

今シーズンのインフルエンザは、流行規模が小さく、感染症発生動向調査における東京都のインフルエンザ患者報告数はこの10年間で最も小規模でした。また、流行のピークも例年より遅く全国では第11週、東京では10週でした(図-2、図-3参照)。

このことは、ウイルスの検出状況にも反映され、ウイルスの検出数も前年に比べて減少し、報告されたウイルス検出数のピークも9週前後になっています。(図-4)。また、今期はAH1、AH3、Bの3種類のウイルス型が全国的に検出され、その数は全国ではAH1=1361、AH3=456、B=1371(感染研病原微生物検出情報4月13日現在)と約 3:1:3 の比率であり、この傾向は東京でもほぼ同様でした。

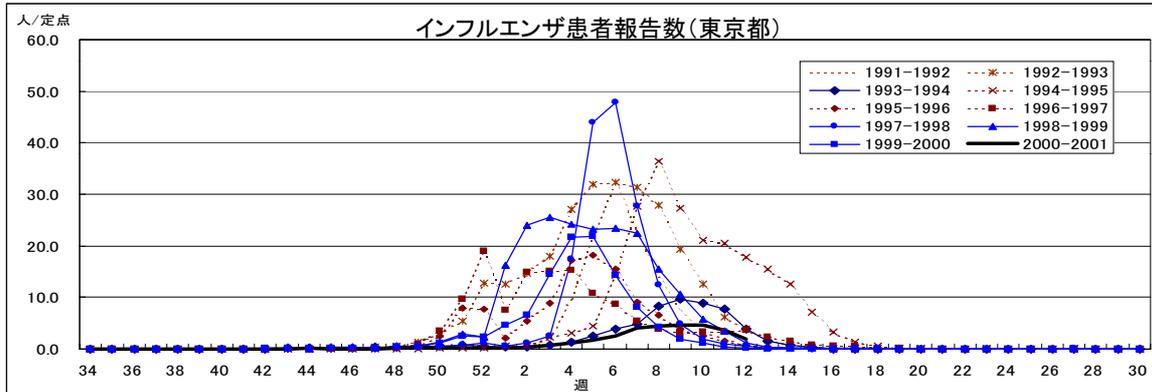


図-2 インフルエンザ患者報告数(東京都)

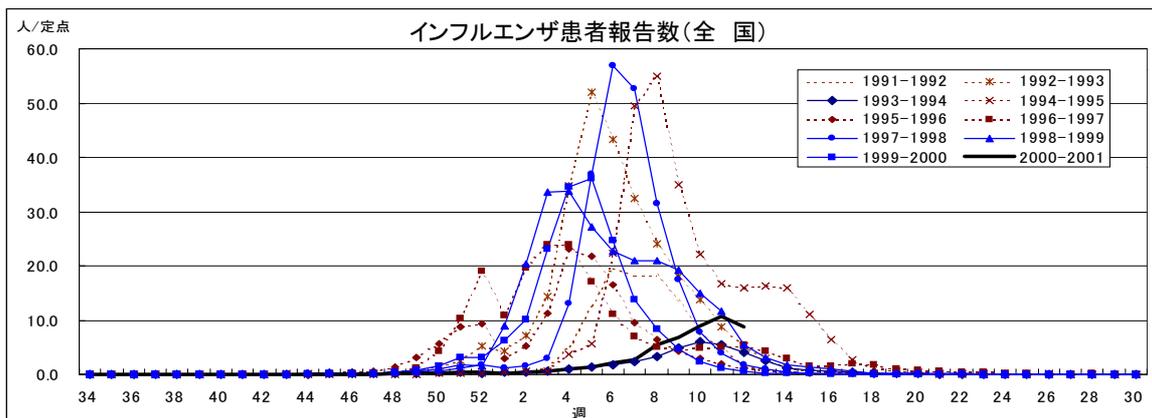
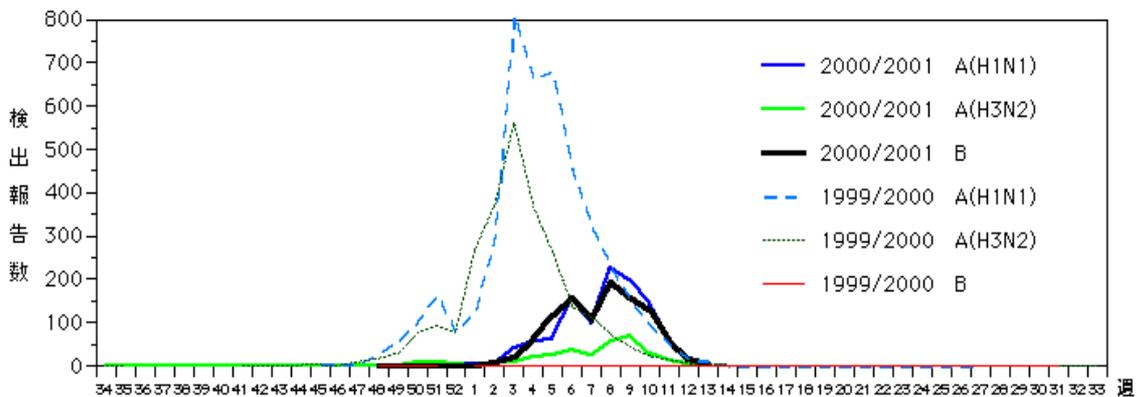


図-3 インフルエンザ患者報告数(全国)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

図-4 週別型別インフルエンザウイルス分離・検出報告数の推移(2000/2001シーズン)

(病原微生物検出情報:2001年4月3日現在報告数)

## 5. 年齢別インフルエンザ検出状況

都立衛生研究所で今シーズン感染症発生動向調査の定点医療機関からの送付検体から検出されたウイルスの型と患者の年齢分布を図-5に示しました。

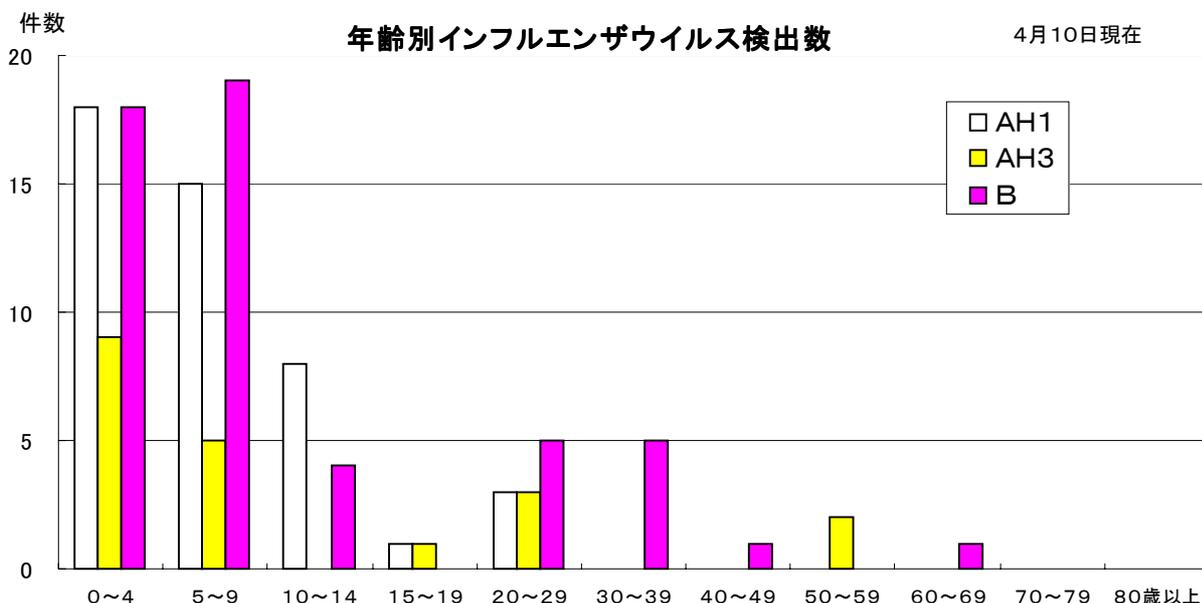


図-5 年齢別インフルエンザウイルス検出数

## 6. 今シーズンのインフルエンザ流行株

### B型ウイルス

今シーズンのワクチン株はB/山梨/166/98株でした。しかし、今シーズンのインフルエンザ流行株は、B/ヨハネスブルグ/5/99類似株で、ワクチン株とは抗原的にあまり一致していませんでした。

昨年秋の抗体保有状況をみてもB/山梨/166/98株やB/山東/07/97株に対する抗体価は、ほとんどの年齢層で低い状態でした(図-7-d、図-7-e 参照)。そのため、ワクチンを接種しなかった人はもちろんのこと接種した人でも今シーズンの流行株に対する抵抗性はあまり高くない状況にありました。今期はB型の検出比率が全体の43%を占めていました。

B型インフルエンザでは、ワクチンを接種していたのにインフルエンザに罹ったり、ウイルスが分離されたとの報告がありました。また、30歳代から60歳代の人からもウイルスが検出され(図-5)、これらの年齢層もまたB型の抗体は低くなっていました(図-7-d、図-7-e 参照)。

### Aソ連(AH1)型ウイルス

今シーズンのワクチンはA/ニューカレドニア20/99株、そして今年のアソ連(AH1)型流行株は昨シーズンにも流行したA/ニューカレドニア/20/99類似株でした。

一方2000年秋の年齢別HI抗体保有状況で、感染防御力の目安となる40倍以上の抗体陽性率をみると、ニューカレドニア株に対する抗体陽性率は低くなっています(図-7-a 参照)。そのため、人々のアソ連(AH1)型流行株に対する抵抗性は低く、感染しやすい条件にありました。ウイルスの検出比率をみても、B型同様43%近くを占めていました。

ただし、ワクチン接種した人には、比較的有効性が高かったものと推定されます。

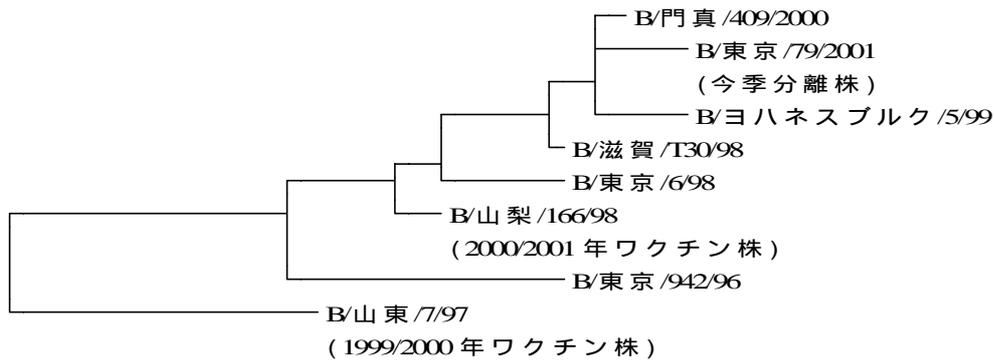
## A香港(AH3)型ウイルス

インフルエンザAH3では、昨シーズンの流行株は主に、A/シドニー/05/97類似株でした。今シーズンのワクチン株はA/パナマ/2007/99株が選ばれ、今シーズンのインフルエンザ流行株は、A/パナマ/2007/99類似株で、ワクチン株と流行株は比較的一致していました。

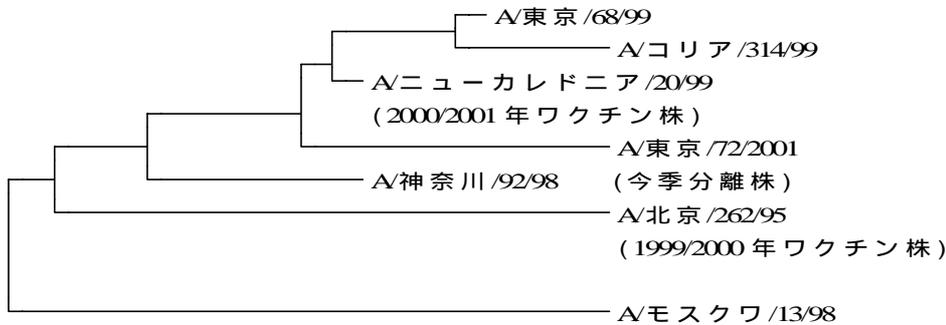
昨年秋にはA/パナマ株に対して比較的高い抗体保有状況でした(図-7-c 参照)。このため、流行株に対する人々の抵抗性は比較的高く、流行はおきにくい条件でした。ウイルスの検出比率をみても、全体の14%しか検出されませんでした。

今シーズン」の流行株は、感染症研究所の速報や都立衛生研究所のこれまでの遺伝子解析の結果では、Bはワクチン株とは抗原的に遠いヨハネスブルグ/5/99類似株、AH1はA/ニューカレドニア/20/99類似株、AH3はA/パナマ/2007/99類似株でした。(図-6 HA遺伝子系統樹模式図参照)

### インフルエンザ B 型 HA 遺伝子系統樹



### インフルエンザ AH1 型 HA 遺伝子系統樹



### インフルエンザ AH3 型 HA 遺伝子系統樹

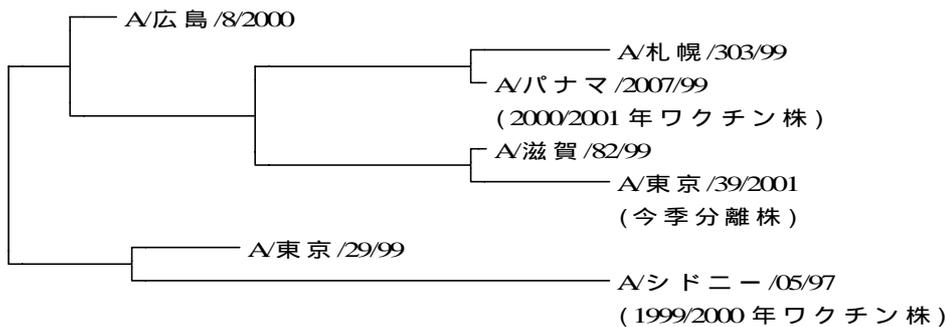


図6 HA遺伝子系統樹模式図

流行予測事業による平成12年秋時点の13都道府県における年齢別HI抗体保有状況

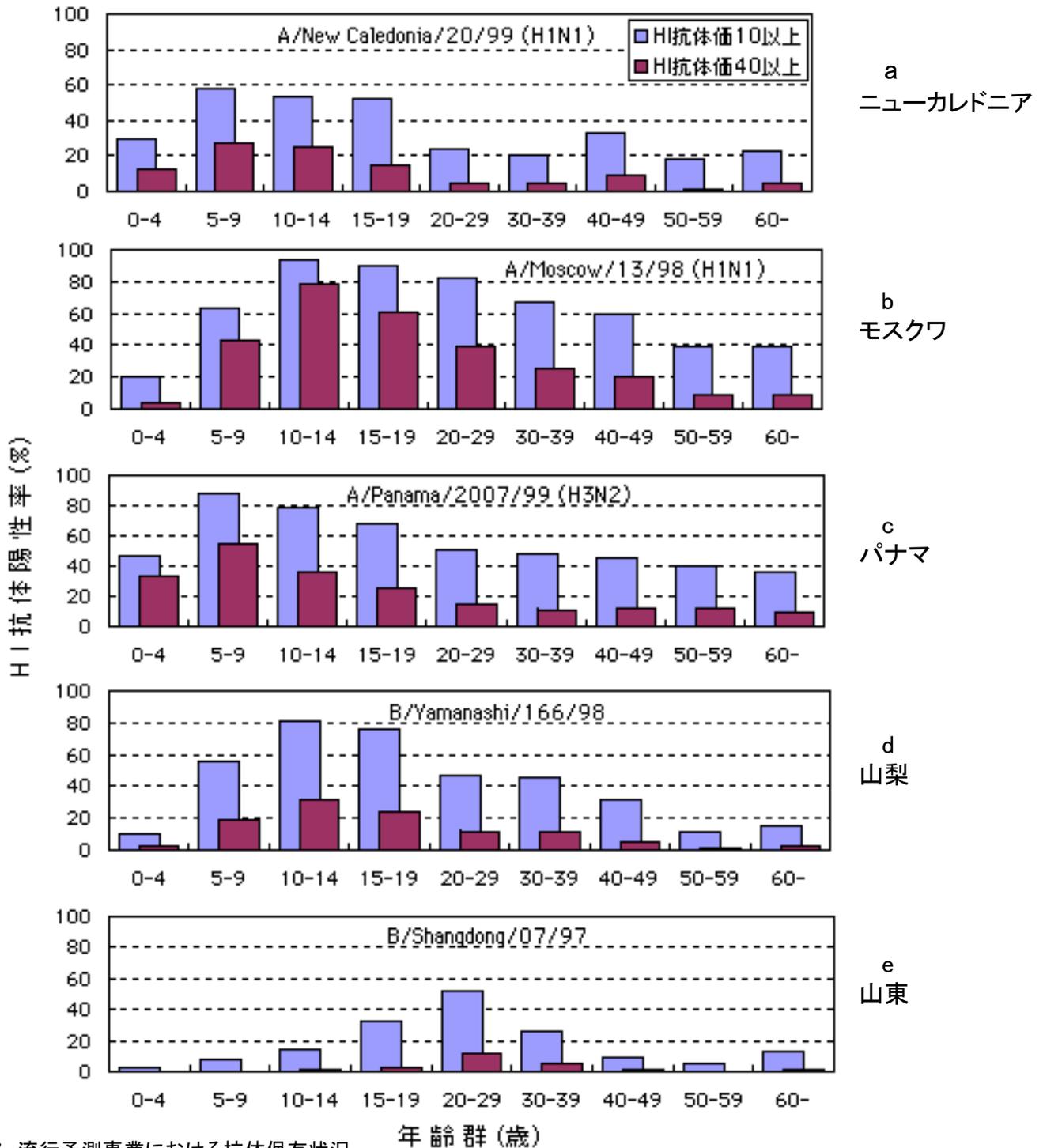


図7 流行予測事業における抗体保有状況

編集・発行 東京都立衛生研究所  
 〒169-0073  
 東京都新宿区百人町3-24-1  
 事務局 微生物部疫学情報室  
 Tel : 03-3363-3213  
 Fax : 03-5332-7365  
 e-Mail : idsc@tokyo-eiken.go.jp  
 URL : www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/



古紙配合率70%再生紙を使用しています